**二宮　　淳 議員**

**（一問一答方式）**

①ＳＤＧｓ

②肱川の治水対策

## ＳＤＧｓについて

**問** 市では施策等の最上位計画として、第２次総合計画後期基本計画案を示しているが、ＳＤＧｓとの関連については、どのような考え方や分かりやすい周知方法を考えているか。

**答** ＳＤＧｓは、誰もが安心して暮らせる地域の実現を目指すものであり、総合計画で掲げる大洲市の将来像「きらめくおおず～みんな輝く肱川流域のまち～」を実現するための持続可能なまちづくりの目標とも捉えることができると考えています。

このことから、今回、第２次大洲市総合計画の後期基本計画の策定では、総合計画の施策の大綱とＳＤＧｓの17の目標との関連を示しました。

例えば、総合計画の施策の大綱１－１農林水産業の振興を例に取ると、農林水産業の振興を図ることで、安全な食料確保につながり、ＳＤＧｓの目標の「２.飢餓をゼロに」と関係があります。安全な食料確保を図るためには、水源地の環境保全を図る必要性から、ＳＤＧｓの「６.安全な水とトイレを世界中に」とも関係するなど、併せて13の目標と関わるものと捉えています。

このように、総合計画の一つの施策が、ＳＤＧｓの複数の目標と関わりを持つもので、総合計画全体の推進を図ることが、様々なＳＤＧｓの目標達成につながると考えています。

市民に分かりやすい周知方法として、ＳＤＧｓの内容は多岐にわたるため、それぞれの施策とＳＤＧｓの目標の関連を簡潔にまとめた概要版を作成し、各戸に配布します。

## 肱川の治水対策について（山鳥坂ダム建設の是非）

**問** 山鳥坂ダム建設予定地は、地盤が不安定という声があったにもかかわらず、なぜ国土交通省は住民の声を聞かなかったのか。今後、様々な問題が出てくる可能性もあるが、どのように考えているのか。

また、その治水効果について疑念が生じるがいかがか。

**答** 地質調査は、航空写真による地形判読、現地踏査、ボーリング、横杭など、複数の手法によりしっかりと行っていたと伺っています。

一方で、近年導入された高品質ボーリングという技術は、地中から乱れないようコアを採取する技術で、高品質ボーリング等による解析を踏まえて、ダムサイトの変更を判断しており、現サイト選定時と比べ、技術的に精度が向上しているため、今後、上流サイトからの変更は想定してないと伺っています。

ダムの治水効果については、令和元年の整備計画で定めた目標流量毎秒6,200立方メートルのうち、野村ダム、鹿野川ダム及び山鳥坂ダムの３ダムにより、毎秒1,600立方メートルとなっています。

## 肱川の治水対策について（堤防整備）

**問** 既設の堤防は、対策を実施する必要がある区間は対策を実施するとしているが、具体的にどのような方法で行うのか。

また、新たに建設される堤防は、どのような強化策が採用されるのか。さらに越流による破堤も大きな課題だが、これに対する対策はどうなっているか。

**答** 国が予定している堤防の強化対策としては、点検を実施し必要に応じて対応することとなります。また、現在整備中の堤防は、河川管理施設等構造令に基づいた構造であるほか、築堤材の調達や施工管理を適切に行っていると伺っています。

整備計画に基づく築堤等を行うことで、整備計画の目標流量である平成30年７月洪水と同規模の洪水を安全に流下させることができるため、整備計画変更原案では越流対策は位置づけていません。